

spur

2009年，エレガントの軌跡

北大エレガントスキー部

2010.7.4

1st:

Kotaro Aoki

Kenji Endo

Ryosuke Oniki

Kohe Kashima

Yasuhiro Kaneta

Ayaka Kumagai

Yoshihiko Kuwana

Mizuki Koga

Yoshiki Konuma

Tsubasa Shimizu

Kota Sugiyama

Saya Suzuki

Kazuki Takarai

Toyohiro Takehara

Akio Tada

Tomoaki Ryogi

2nd:

Takuya Ichigi

Masato Uehara

Yasuhiro Ochiai

Saki Sato

Hiromi Shibui

Takafumi Shimojo

Etsujiro Takai

Takayuki Tanaka

Yu Tanaka

Kota Ninuma

Taichiro Nishiyama

Takao Miyamoto

Kohe Yamamoto

3rd:

Tomohiko Hosome

Yuhe Noguchi

Hidenori Ishibashi

Amane Kyoya

Sumiyo Kobayashi

Yutaro Konno

Miho Tanaka

Kazumasa Tochikane

Naoto Hirata

Fumiyasu Makino

Miyu Lee

4th:

Tomoya Koide

Naoki Shimo

Yuta Tsuzuki

Ryuta Nakada

Kojiro Hirayama

Hirota Honda

Choichiro Matsui

Masanori Matsudaira

は じ め に

1 年生は知らないかもしれない。^{シュプール}spurとは「独：軌跡」という意味である。スキーに転ずると、「自分が滑ってきた跡」ということになる。覚えておいても損はない。そして、この spur という書物は去年の自分を振り返り、来年へとつなげる、謂わば、来年の自分へのマニフェスト的なものであるととらえてもらってもいいと思う。

さて、全ての spur を読ませてもらった。大体の人は「(個人の技術、成績 etc に関して)去年はイマイチだった。来年はもっと躍進せねば。」という内容であった。去年、男子に限れば岩岳大会全国 4 位。過去最高である。それでも、満足していない。なんというハングリー精神か。素晴らしい。この気持ちがある限り、エレは強くなれる。そんな期待をしてしまう。

随分、客観的な書き方になってしまったが、もちろん自分も当事者になるつもりである。

ところで、ぜひとも読んでほしいものがある。以下に示そう。

- 「今シーズンに向けて」(棚兼 一将)
- 「エレに入って」(上原 壮登)

この2つは、個人的なことばかりではなく、全体に対しても言えるようなことが書いてある。さらにエレが強くなるために、改めて意識すべきことが書いてある。読んでみて損はないと思う。

2010 年 7 月 4 日

第 44 代 執行部 渉外部

石橋 秀規

第43代執行部はいかがだっただろうか？賛否両論あるだろうが、この1年やってこれたのは、サポートして下さった先輩やOBの方々、また、こんな執行部についてきてくれた後輩たちのおかげです。本当にありがとうございました。

去年の4月発足した執行部が運営していく上で、大きな課題は、岩岳大会を部全員で戦うための意識作りにあったような気がする。これは自分たちが1年生のころからこの状況を見越した議論が、飲み会などの場で先輩たちと幾度となく繰り広げられていたので、急な難題ではなかった。

が、しかし、「岩岳大会全員参加」の意識をスムーズに部全員に受け入れさせることは出来なかった。その結果、幾人もの仲間が5月に去って行ったわけだし、この事態は、非常に胸を締め付けることだった。けれども、4月に決めた目標（男子総合2位以上、女子総合6位以上）を達するためには避けては通れないことであった気がした。

9月。まだ、岩岳大会に出たことのない1年生が、岩岳大会がどのような大会で、この部が目指しているレベルがどのようなものかをp.p.を使って説明したミーティング（岩岳講習）は非常に意義のあるものであったし、1年生の胸に少しでも、執行部の思いが響いたのではないかと思った。

そして、シーズンイン。部、個人の目標を各々持ち、懸命に練習、話し合いしている姿は、非常に微笑ましかったし、自分も頑張ろうと思った。そんな、先輩たちの姿をみながら後輩らも練習に励み、予想以上に技術向上へとつながって行った。

部内戦選考会。とうとう、この日がやってきたかというのが本音だった。男子の場合、限られた出場枠を争う訳だから、みんなの目つきは普段と比べ者にならないくらい真剣だったが、本当に静寂な戦いであった。

選考会后、枠を勝ち取った者とそうでない者との間に大きな溝ができてしまうのではないかという最悪の危機は少しもなかった。これは、シーズン前までに行ってきた部の意識統一と先輩方のフォローや同学年の支えなどにより、この事態を回避できたと思った。

そして、この日に、男子の目標を総合優勝に変えた。この目標変更は、この日の勝者へだけへのメッセージではなく、部全体の意識を高め、部、個々の起爆剤になってくれればという熱い思いがあった。

部のみんなが同じ思いを掲げ臨んだ岩岳大会では、実際、選手1人だけの力では結果を出せるほど甘い大会ではなかった。それを補う見えない力として、サポート力は選手にとって心の支えになったし、体力消耗などの負担を軽減し、コンディション調整に集中に大きく貢献した。それが、本大会の結果につながったのは言うまでもない。

この2年間、部の大会成績は上がっているが、目標は達成できていない。新執行部には、この4月に掲げた目標を夢ではなく、実現してほしい。この目標を達成するためには、この1年間でみんなが感じたこと、来年に向けてどうすべきかと思ったことを反省会などで議論し、その問題に対して改善していくことが部の力をつけていくことだと思う。

2010 2011シーズンでの岩岳大会でてっぺんをとるためには、執行部が同じ方向を向いているということと部の雰囲気作りの2点に精を出して入れれば、心地よい練習環境が生まれ、自然と部全体がまとまって行くと思う。そして、執行部だけが頑張るんじゃなくて、1,2年生も学年のまとまりを生かし、お互い切磋琢磨することは非常に意味のある心がけである。また、困ったら、すぐに先輩に頼ればいいと思う。

会長としては、威厳を保つことも重要ではあると思うが（自分自身はできなかつたけれども）、会長は執行部をまとめることが第一の仕事で、部をまとめるのは執行部全員で取り組めばいいと思う。また、エレを本気で愛し、常にエレのことを考え続けることが心地よくなった時、その代の会長らしさが出てくるのではないかと思う。

長々と書いてしまったが、このシュプールを書くことで、一年を改めて振り返ることができ、モチベーションが下がりやすい夏の時期に非常に有意義な時間だった。また、このシュプールを読むとき、みんなの思いに何か少しでも訴えることができたのであればとてもうれしく思う。

【副部長編】

「昨年度、副部長としてとても部の運営が難しかったことを思い出しますね。威厳を保持しようとする部長と、そのキャラとは似ても似つかないギャップに反発する他の執行部メンバーとの板ばさみ状態となり、その取りまとめに奔走していました。挙句の果てには、孤立した部長のメイン合宿ボイコットや、岩岳団体メンバー選考時に、技術レベルを無視し、団体Bチームを執行部だけで固めようと画策した他の執行部メンバー。表向きは、仲良しを自負していた代ではあったのですが、裏では、権力を持った部長 vs 部長独裁に反発する他の執行部メンバーという図式でしたね。クーデターだけは起こらないように必死でしたよ」と語る前副部長のM氏(22)。

とまあ、こんなことを書くと1年生が信用しちゃうかもなんで…。部長がメイン合宿を欠席という前代未聞の出来事の内情を少しだけ暴露しておく。なんとかとりなして最終日だけは参加してもらったのが、今ではいい思い出である。

では、ここからが本題。実際には仕事らしい仕事はほとんどしなくても大丈夫なくらいに他の執行部メンバーがやるべきことをこなしてくれたので、1年を通してみれば本当にスムーズに部を運営できたと思う。副部長っていうのは、部長を助け、他の役職が円滑に仕事を進められるようにするものだと思うので、部長や他の役職が、各個責任を持っていけば、自ずと、副部長の仕事はなくなるのだと思う。そういう意味で、周りのメンバーに恵まれて、とても幸せに思っていたし、とても感謝している。また、執行部のメンバーが増えたことで、役職の掛け持ちがなくなりそれぞれが、自分の役職に専念できたことも大きいと思う。幸い、今年度、来年度さらに次年度も部員がそろっているので、各個人が責任を持って、自覚を持って、部を運営していけば部としてもっといいものが得られると思う。

岩岳は1年の頃、30位代だったのが、2年のときに9位と上の代に底上げしてもらい、とうとう4位までになった。本当にいいときにエレに入部し、いいときに執行部になれたと思っている。先輩や同じ代、後輩に感謝しかない。だから今年こそは持ち帰れなかった岩岳優勝旗を奪取しようぜ！！

【個人編】

個人としては、札予突破、岩岳SS獲得、団体表彰台と本当に充実していた。特に札予の突破で道大会に行ったことで今まで見えなかったものが見えて、自分が井の中の蛙状態であることを思い知らされた。来年は道大会での成績アップを目標として練習に取り組んでいきたい。ぜひ、みんなも札予突破を意識して練習してもらいたい。岩岳で順位を上げることが最大目標なのだが、札予、道大会のほうが、はるかに大きな秤なので、札予を意識した練習で確実に岩岳の成績はついてくると思う。

反省として、また目標として、バーンコンディションに左右されない技術というものを追い求めていきたい。

師匠として弟子はよくやってくれたと思う。感覚的な指導でちんぷんかんぷんにさせることがよくあったなか、しっかり結果を残してくれた。

先輩として、師匠として、来シーズンもみんなをサポートできればなと思う。

みんな頑張ろうぜ！！

最後に、これ以上望むことは、このシュプールが公開されるまでに平山に彼女ができていますように！！

【トレ部】

執行部のみんなが嫌がるトレ部。やはりめんどくさいことが多々あった。

いつもトレーニングのことを考えているなんてエレにおいて自分1人だったと思う。すごいえらいね。

まず初めに、トレ部として特に気をつけていたことは常に元気いっぱいであること。きついトレーニングでも元気にやれば楽しくなるだろうって思って大きな声をいつも出していた。

また今年は去年よりも更に上のトレーニングを、ということで新しく体幹を鍛えるトレーニングを取り入れることにした。また後期からは何回も同じトレーニングを繰り返し行うことを執行部で決め、中距離走、体幹トレ、筋トレを全ての班で行った。かなりきつい内容だったと思うが、みんなついてきてくれたので非常に感謝している。

改善点として特に気になることは、執行部内でのトレ内容の把握がきちんと出来なかったこと。次回のトレ部はその辺を気をつけてやってほしい。

1年間お疲れ様でした。俺。

【個人】

めっちゃ上手くなって、充実した1年であった。

そもそも僕は小回り大好き人間で2年の時はショート板ばかり乗っていた。それではいかんと今年はロング板にたくさん乗り、ロングターンがものすごい上達した。特に大きかったのは「お正月だよ！松平講習！！ in ルスツ」である。大回りを根本から直してそれがかなりいい方向に向かっていった。ホントありがとう。

岩岳大会では146位と、目標であった100位には届かなかったが去年の予選落ちを考えると大健闘であったと思う。団体に関してはBチームを引っ張っていき、結果を出すことは出来なかったが十分に上位を狙えるレベルに到達していたと思う。

また、今年は初めて師匠になった。人に教えるって難しいねって改めて感じた。でも教えることにより、自分自身の分からないことが浮き彫りになって結果として自分自身も成長することができた。感謝感謝。弟子も1級とってくれたし万々歳。

あと、スキーが楽しいなあ～って3年目にしてようやく思えるようになった。イイネ！！

これからのエレにむけて

志茂 直樹

入部してからの3年間、エレは組織の規模はどんどん大きくなり、部の成績も良くなり続けた。現在部員は40人を超え、昨年の岩岳大会では過去最高の大会男子総合4位という成績を残すことができた。自分たちの代が執行部の時にこのような成果を残すことができ、本当にうれしく思っている。

しかしエレの運営において、本当の正念場はこれからにある。これからも部員の数を維持し常勝軍団でいることが求められるが、それにはかなりの努力が必要だと思うからだ。エレの過去の記録からみても、部員の人数や成績は上昇したり下降したりを繰り返している。また世間におけるスキー人気も一時期においてよりはかなり下がっていて、他の大学のスキー部の多くは衰退の危機に瀕している。このような状況においてエレが強くなり続けるためには、執行部はこれまで以上に責任が大きくなり、運営を工夫していくことが必要になるだろうし、部員みんなでの雰囲気作りが重要になっていくと思う。また自分たち4年生、さらにはOBの存在もこれからはさらに大切になると考えられるのだ。

これからのエレのさらなる発展を期待し、また自分としてもその力になりたいと思う。

人のスキーを笑うな

都築 佑太

今シーズン特筆できる結果が残せなかったのがとても残念だ。残ったのはなかなかいい感じに脂の乗ってきた（スキー的な意味とそのまんまの意味両方）弟子2名を輩出できたことと、コマ送りでコケている団体の写真である。特に後者は人生のなかでも失敗談五本指に入るであろう品物だ。あんな大舞台でしかも団体でコケたなんて神の思し召しがあったとしか考えてません。

現役部員はマネしないように

みなさんごめんなさい。

あと残ったと言えば変な板！みんな笑うけど本当は妬みでしょうか。

あ、あと priceless な思い出！これ重要。

来シーズンの抱負

中田 龍太



来シーズンはスキーを楽しみます。

昨シーズンは怪我した膝を気かけながらの消極的な練習になってしまい、結果も全く出ませんでした。

スキーは攻めてなんぼです。攻められなければ楽しさが半減します。そのせいで結果がでなければ更に楽しさが半減してしまいます。

だから、来シーズンは十分楽しむために攻めます。もし医者に攻めちゃダメって言われたら...その時考えます。

果たし状

平山 宏次郎



岩岳で初めて自分だけで点取れた。3年目にしてやっと。技術の上達に関しては不満はない。でもこれで満足したらあかんことも知ってる。俺がほぼ同じスタートラインやと思ってたやつとは、相変わらず差がある。1年、2年と差つけられて、3年で差を広げられなくなった。今年は、今年こそは差を詰める、てか抜く！覚悟しとけよ！！

無 題

本田 裕貴



会計に関して、支出の面で説明不足な部分が多かったので、来年度以降にいかして頂きたいと思いません。



昨シーズンは、弟子2人が好成績をとることができ、とりあえず安堵している。しかし、自分自身に関してはモヤモヤしたシーズンであった。

結果的に成績は残すことができたが、絶対的な実力が上がったと自信を持って言うことができない。岩岳で表彰台に乗る選手たちとはかなりの実力差を痛感している。今のままでは表彰台に乗ることなんて不可能だし、たとえ乗ったとしても恥ずかしい滑りしかできていない。

去年は、滑りに関してあまりいい感触が得られない代わりに「何か違うんじゃないか」、そんな違和感が積っていったシーズンだったといえる。また、基礎練習を面倒くさがり、無駄にフリーをしていることが多かった。基礎練習を面倒くさがることは言うまでもなく、違和感を違和感のままにしているのは、自分に甘いという性質が原因なのかもしれない。違和感があるなら試行錯誤するなり、もっと深くまで追求することで何か見えたはずだし、仮に原因が分からなくても他の何かをつかめたかもしれない。

来シーズンは、1本1本を丁寧に滑り今までのシーズンより密度を高くしたい。そうすれば、岩岳の表彰台に近づくことができるはずだ。

一木！表彰式で叫ぶ内容考えとけよ！！

今年目標



先シーズンが始まる直前、俺はまだ新しい板すら買ってない状況だった。もうエレにはいない予定だったし……。でも11月11日には新しい板も手に入れ、ONZEで滑る自分がいた。なぜ続けたのか？そのはっきりとした理由は自分でさえも未だにわからない。でもあの時辞めなくて良かったと感じているのは確かだ。

そんな中始まった先シーズンの目標は、選考会前までに1級を取ることと岩岳に出場することだった。1つは達成できたが、むしろこの目標は1年の時からの延長であり、おまけのようなものだったから達成できて当然という感じだった。喜びというよりも安心感の方が大きかったかな！？もう1つの目標はなんとも情けない結果に終わってしまった。本当に師匠には申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

というわけで、今年目標は「絶対に岩岳に出場する！！」んで、出るからには結果を残す！！！

まずは手の構えをどうにかしなくちゃ(´Д`；)



去年を振り返る。1年の時よりもはるかにエレに深く関わったような気がする。進級したてのときには積極的に新歓に参加しようとした。そして、14人入ってきた。変なのばかり(笑)。その14人も今年2年となり、新歓をして、1年生をエレに引き込んだ。エレも増えてきたなあ。

去年の役職はビデオ部と途中から渉外部。ビデオ部は1年の時からやっている。慣れた仕事であったが、団体練習の時に充電を忘れて他の部員に迷惑をかけたことがある。また、HDDの余り容量が十分でなく部員を混乱させたこともある。そして、最も汚点なのが、岩岳の時に撮影班がHDDではなくDVDで撮影していて、いざ学連に提出となったら、データがまるまる消え去っていたことである。他大学の「え...?は.....??エレ何やっちゃってんの????」みたいな目線が恐ろしかった。これらの点は猛省すべき点であろう。

渉外部は都築さんの部下ということで主にCESリストの作成やspurの編集など、雑用をこなした。これらの雑用は比較的トントン拍子に進んだと思う。ただ、spurに関してはなかなか提出しなかった人などがいたため、今年は6月30日までにHPにアップするという活動方針に記した。それでも期限を守らない人がたくさん。出せやああ。

スキーについて。4月に設けていた『絶対に1級をとる』という目標はシーズンの最終キロ口でやっと達成した。最終キロ口ということでおまけ合格みたいなものである。どうもすっきりしない。(でも、合格が分かった時はうれしかった。)

次なる目標は、『岩岳、個人戦出場』。つまり、エレ内男子で15位以内に入ることである。結果は15位の衡田に8ポイントで負けた。17位。悔しかった。その悔しさを反動にして、うまくなろうとすることができたし、少しはうまくなれたのは結果オーライ。だが、学連大会では中回りで転倒、見事に去年の師匠の後を継いでしまい予選突破まであと1ポイントで落選。こけるのも実力のうち。先シーズンで最も悔しい出来事であった。その師匠は今年、決戦まであと1ポイントで落選していた。来年は師匠の後には絶対に継ぎたくないし、継ぐつもりもない。エレ・パンデミックも起こさない。

最後。師匠のちょうさんには感謝しています。性格上、師匠に対し生意気なことを言ってきましたが、決して本意ではない、.....ことが多いです。短所もあったが、自分的には長所のほうが多いマンツーマン形式で教えてもらいながら、岩岳には出られなかったし、朝里では予選さえ通らなくてごめんなさい。

そんなこんなで結局、これといってパツとしない成績で先シーズンは終わってしまった。

でも、去年1年は充実していたのは確かだ。先シーズンのことを来シーズンにつなげ！すると、きっとうまくなれる。そんな気がする。それだけでも十分財産だと思うな。

相棒のiSLとSL、それと足元を支えてくれるLANGE。それを以って、ちょうさんとは岩岳の舞台上で勝負したい。『師匠越え』、これを来シーズンの目標としよう。.....とりあえず、目線やな。下向いちゃダメ。

楽しんで

京谷 周



2年目シーズンは良い師匠に恵まれ、滑走日数もかなりあったのにもかかわらず、結果を残すことができなかった。3年目シーズンは今までよりスキーに割ける時間がかなり減ってしまうので、1回の練習ではより効率を考えたことをしていきたい。しかし、自分は結構考え込んでしまう性分なので、あまり考え込みすぎないことに注意したいと思う。師匠も、次のようにおっしゃっていた。

『いろんなスキー場にいったり、いろんな斜面を滑ったり、いろんな板をはいたり、とにかく楽しむ。スキーは苦しいもんじゃないんだから。』

当然、試合で良い点数を得るために一生懸命練習したいと思う。しかしもう一方で、今までよりもっともっとスキーを楽しみたいと思う！これが3年目シーズン1番の目標。

2年生おわり！

小林 すみよ



去年は目標が1個も達成できなかった。

スーシーだめだったし、女子総合で表彰台乗れなかったし、学連大会で決勝いけなかった。

だからってまあ全然だめなシーズンじゃなかった。

札予突破って目標が出来たし、女子団体優勝って目標も出来た。もちろん去年達成出来なかったのも引き続き目標です。

むしろ確実に上手くなったって思ってるから、悔いは残るけど良いシーズンだったです！ノシ
あー楽しかった二年生時代だったなあ。

今年は3年生やー

来年は4年生やー

5年生まで現役やー

がんばるぞー！



そうか、XR がいなくなってもう 2 ヶ月もたつんだね。初めて君と出会った日を今でもよく覚えているよ。ちょうど 2 年前、僕が 18 の時の受注会だったね。最初に君を見たときは正直言ってダサイ板だと思って思ったけど、実際に君に乗って滑ってみるとデザインなんて気にならないくらいにいい板だったんだ。エレの 3 年生は君のことをペラペラで信用ならないなんて言っていたけど、僕にとっては君がだれよりも一番に信頼できる板だったんだよ。1 級に合格したときも、大会のバーンを滑ったときも君と一緒に滑ったよね。

そう、今日は君に報告することがあるんだ。僕は来シーズン新しい板を買うことになったんだ。君と 3 度目のシーズンを迎えられないことは本当に悲しい。けど修理不能証明書が発行されてしまったら、もう君に乗って滑ることはできないんだよ。LM と上手くやっていけるかはまだ分からない。でも君と過ごした 2 年間を無駄にしないためにも、LM を乗りこなして、来シーズンはきっと上手くなってみせるよ。君にも見守っていてほしい。それじゃあ、さようなら。

無 題



去年は、クセを直すのがなかなかできず苦労したシーズンでした。特に大回りでの外向...

スキーではよく言われることだけど、自分なりに変えているつもりでも、実際すぐ直らないってことは全然変わってなかったんだらう。今年は注意してもらったことや自分で意識してることを、もっと大きく表現して、いろんな感覚を試行錯誤しながら練習していきたい。

また、今年は初めて弟子をとる年です。自分が師匠をちゃんとできるのか！？という不安はありますが、自分の弟子はどうにかうまくしてあげたい！！

そして、今年も女の子が入ってくれて、きっと団体も 2 チーム出せるので、ガンガン上を狙っていこう。てか、ホントに誰も怪我しないでほしい。

あとは、去年追試でポール合宿に行けなかったのが、今年は全部参加するのが目標です



昨シーズンは納得のいかないシーズンだった。都合のいい解釈をすれば今シーズンを納得のいくものにするシーズンだったのだと思う。まず、昨シーズン立てた目標を全く達成できなかった。単純に目標を高く設定しすぎたんじゃないかと思う人もいるかもしれないが、個人的には自分の準備が足りなかったことが理由だと思う。

スポーツの上達のためには目標に向けてどれだけ準備するかが大事で、そのためにも特にイメージが重要だと思う。イメージが強いほど、具体的であるほど結果が出ると考えているので、オフシーズン中のイメトレはシーズンに入ってから自分の伸び白を大きく左右するはずだ。スキーの場合、その準備期間は半年もあり、オフシーズン中に理想の自分の姿（うまい人の滑り）にどれだけ近づけるか（手の構え、肩のライン、膝の角度、腰の向き...）が上達のカギだと思う。もちろんシーズン中にもこの意識を怠らないようにしないとイケない。去年の夏休みの自主トレではスキーの動きに近いインラインを主に練習して内足を使うという感覚は得られたが、内足をグリップさせたまま体を谷方向に落としていく重心移動のきっかけまではつかむことができなかった。結局、重心移動をつかむまでにシーズンインから苦労することになり、その後の技術の上達に影響がでてしまったと考えるととても悔しい。今年はこんなことにならないようにしたい。

もう1つ悔しい思いのしたのが、怪我である。もともと怪我をしやすい体質だが、年間に3回も中～上級の怪我をしたのは初めてだったので気力、財力ともに苦しかった。（カーオーナーのみなさんお世話になりました。ありがとうございました。）怪我をするとスキーに行きたくても行けないという最悪の状況に置かれモチベーションは地に墮ちるが、そういう時こそイメトレやDVDでモチベーションを上げるようにし、復帰した時のことを常に考えるようにしてほしいと思う。自分の場合、幸いにもエレガントスキー部最大の目標である岩岳大会の前ではなかったので非常に助かった。むしろそれによってストックワークや圧のもらい方などを体で覚えることができたのだとポジティブに考えることにしている。今年はこんなことにならないようにしたい。

また去年は1年の時に比べ、うまい人と一緒に滑る機会がずっと多くなり、話を聞いたり実際に滑りを見てもらったり後ろからついて滑ることで、少しずつスキーがうまいとはどういうことかがわかってきた。特に北海道代表として参加した東北連大会で、4日間うまうまな人たちとずっと一緒に滑れたことが大きな経験になった。うまく言えないが、実際に滑ることでしか得ることができないものを得たのだと思う。（道筋的な何か）しかし技術をしっかりとものにできたわけではなく、まだつかみかけの段階なので、この技術を今年はモノにしたい。

今年は執行部および学連の副会長という立場でやっていくことになり、とても多忙な1年となるだろう。執行部としては、自由気ままな去年までのとは違い、エレガントスキー部を引っ張っていく立場としてもっと周りを見てチームをしっかりとまとめていかないとイケない。（できれば口で言うより行動で示す人になろう。）岩岳大会総合優勝という目標を掲げて今年で2年目だが、それを実現することは可能だと確信している。あとは個々の力すなわちチーム力を上げられるように、自分の技術向上はもちろんだが、他の人にも積極的に指導していきたい。

この1年が最後に達成感や充実感で気持ちよく終われるように今後とも努力していく。



昨シーズンは目標だった岩岳出場を達成し、岩岳も朝里も決勝まで行けた。来年につながるような結果を出せてよかった。

しかし、ビデオを見ると満足のいくような滑りではなかったので、来シーズンは全身を使った大きな動き、なめらかなターンのつなぎ、様々な斜面への対応力を特に伸ばせるようにしたい。

春雪で特にいい感覚を得られたわけではないので、夏の間がいいイメージを頭の中で作っておきたい。

one four
1 4 ALL



spur 未提出組 4 人のうちの 1 人になってしまった... spur 提出が遅れてしまって本当にごめんなさい。ただ、後輩達に残してゆく大切な spur に何ゆえ未提出者 4 人という無価値な情報が付加されているのかは、当方甚だ疑問...。きっと石橋はそこをツッコんでもらいたいに違いない、そう信じようではないか、なァ田中よ？

考えてみれば、去年田中と共にパダワンをやっていたなんてまったく実感がわかないヨ。何故だろう...。1 年生の時の公式連なんて個人的にはネタ満載だったのに、田中のネタといえば藻岩でコケて頭ぶっていたのをからかったら、泣きながら外に出てった事ぐらいだろうか...。ゴメン田中。

と、内容が田中宛の手紙みたいになってきて非常に気持ち悪いので本題に戻ろう。

去年の 1 年間は、自分のなかではとてもじゃないが一言で表せるほどストレートなものではなかった。とにかく上手くいかない事が多すぎて、随分ともがいていた気がする。まァ、人生ってそんなもんなんですかね。選考会ではあと 1 歩で枠が手から零れ落ち、朝里も準決勝で散った。ただ、納得いかない事もあったけど、仕方のないことだと思ふときの方が多かった。何故なら自分はシーズンオフ中、つまり去年の今頃に全くモチベーションを欠いてしまっていたからである。ここで多くは語らないが、あの頃はただひたすら先のことに対しての不安を抱き、本当は何をするべきかを悩んで、自分が置かれている状況に全く目を向けていなかった。自分でも何がしたいのか本当に分からなくなっていた。ただそんな時、仲間がいて、^{マスター}師匠がいて、先輩、後輩がいて、本当に良かったと思ったのが本音...、だから今も自分はこうして spur を書いている。助けてくれてありがとう。

さて、上の文章で「仕方のないことだと思ふときの方が多かった。」なんて書いてるけど今年は違う。3 年生になって、最初から全開バリバリ。当然やればやっただけ失敗した時の悔しさも大きくなっていく。それでも「今感じている、去年の自分に対する悔しさ」をバネに、この 1 年間を精一杯頑張ろう。やれたはずの事をやらなかったというのが最大の失敗であり、もっとも大きな悔しさであると気づいたから。

って spur にこんな真面目な文章書いちゃって大丈夫なのかい?? ええっ?? 文章すらもネタって...、バカヤロー!!



李美侑ですこんにちは。

今年は1年の女の子が3人も入ってくれました。団体2チーム出せちゃうので、もちろん表彰台を狙っちゃえますねえ。わーいわーい。昨年1級とったときに、ジャッジしてくださった国際のインストラクターさんに、あなたは筋肉が足りませんって言われてしまった。そんなこと今言われてもすぐにどうすることもできないじゃないかああ。というわけで今年は夏トレがんばろー。ってか会計って大変な仕事じゃないけど地味にめんどくさい。しょっちゅう銀行行かなきゃなんないし、なんだか会計に関係ないお金に関する質問よくされるし。去年はスーシー全然だめだったなあ。今年はスーシーとろう。がんばろう。あれ？でも、院生出れるってことは、厳しくなるのか？困ったな。でもやっぱスーシーほしいな。今年は師匠をやるのかあ。楽しみなような不安なような…。私の師匠みたいな師匠になりたいな。小回りなんとかしなきゃな。疲れるし、楽しくないし、めっちゃめっちゃ苦手だな。でも教えなきゃいけないし、見本見せなきゃいけないし、今年は札予もでるし、なんとかしなきゃ。うーんこんなもんかな。なんだか今年の執行部のようにまとまりのない文章になった。シュプールってなに。

シュプール

一木 拓哉

1シーズン振り返ってみて思うことは、半年があっという間に終わってしまった、ってこと。11月にオーズが開いて合宿、選考会、検定、岩岳、朝里と。まさに光陰矢のごとし。シーズン入る前は、シーズンインしたらあんなことしてこんなことしてなんて考えていたのに、結局自分の満足するすべりもできず（まあ満足しちゃいけないんだろうけど）やりたいこともできずにエレ1年目が終わってしまった。来シーズンはこんなことがないように目標に向けて今から着実に準備していきたい。

あと、今年学連の補佐になったのでそっちのほうも頑張っていきたいな。このシュプールをかいている約1週間後に夏レクで司会をやらせれるはめ、いや、やらせていただくことになってます。みなさんあたたかい目で見守ってやってください。

エレに入って

上原 壮登

エレに入ったのは、「小学校の時、家族でスキーに行って楽しかったし、やろうかな」と少しだけ軽い気持ちできっかけだった。地元の長野と比べ、北海道は11月からシーズンインそしてゴールデンウィークまで滑った。師匠の熱のこもった指導やエレのスキーに対する情熱を肌で感じ、「楽しく滑ろう」から「もっと上手になりたい」と思うようになった。

しかし、大会では、いい結果を残すことができず、悔しい思いをした。何より、実力が足りなかったという反省が残った。どうすれば、実力をつけられるんだろう.....。

そういえば、中学の時、部活のコーチが「上手い人は、技術と身体能力が調和している。ある技術を習得するには、技術とその技をこなすための筋肉、柔軟性...すべてが調和して完成する」って難しいこと言っていたな...。確かに、県2位になった友達は、技術もあったけど、筋力、スピード、...メンタルどれも1番だった。1年間、スキーをしてどこの筋肉を使うのか、少しずつわかるようになってきたので、11月までオフトレしっかりやって、11月から技術を伸ばして、去年の悔しさを晴らしたい。

Ps. いろいろ書いちゃったけど、口だけにならないようにしたい。

今年目標

落合 泰大

数ある部活，サークルの中で，基礎スキーなんて全く知らなかったのに自分はエレに入っていた。夏はあっというまだったし，冬は一瞬だった。去年度は1年だったから岩岳も朝里も新人として出られたが今年はそうはいかない。2年男子にとっては岩岳15人枠をうばいとるのはとても厳しいものとなるだろう。

自分はポテンシャルが高いわけではないから，せめて滑る量は負けたくないと思っていた。

滑走日数100日！！去年は達成できた。今年はいけるか？2年の冬は学校が忙しくなるから量ではなく（量もだが）質を高めていくつもりだ。

今年目標

- ・岩岳個人戦にでる
- ・パウダーをたくさんくう
- ・滑走日数100日

あ～俺，単位大丈夫かな…。

お礼

佐藤 幸

去年2009年1年間，大変お世話になりました。

感謝感謝です。

良い経験をたくさんすることができました。

素敵な思い出もできました。

楽しいこともたくさんありました。

ありがとうございました。

先シーズンの出来事の中でいちばん印象に残っているのは、やはり岩岳大会。フェリーの中でエヴァ読んだり、岩岳着いてすぐに熱出して寝込んだり、個人戦でスーパーシード取れなかったり、団体戦で4位入賞したり！

今シーズンに向けて残された課題はまだたくさんあるけど、ひとつひとつやっつけて、かっこよく滑れるようになる！そして、今度の岩岳ではスーパーシードはもちろん、女子の団体と総合両方で表彰台に上る！この目標に向かって頑張っていきたいと思います。

あとは、時間にルーズになりすぎないように……気をつけます(●´ω`●)ゞ

今季の目標

下条 啓文

今年はバイト5連敗という残念な結果から始まった。未だ仕事はない。今年は20歳という人生の節目の時期なので色々頑張らなくてはいけないと思う。脱ニート宣言。これが第一目標である。

ところで、振り返ると岩岳で得意だったと思っていた小回りがまさかの199、またシーズン終わりに1級に落ちたことが悔やまれる。検定で2回も転んでしまった。自分の安定力のなさに絶望した。今季はどんな雪にも負けない安定力を付けたい。そして、最初の検定で1級を取り、岩岳出場を目指して頑張りたいと思う。

来シーズンの抱負

高井 悦二郎

昨シーズンはスキーの面白さが十分に理解できず、不本意なシーズンとなった。その原因はやはり私の向上心のなさ、消極性にあったと思う。気がつけば私も2年となり、後輩を持つ立場である。1年の悪い見本にならないよう、来シーズンはもっとアグレッシブにスキーに挑戦していきたい。

昨年は基礎スキーを通じてスキーの新たな楽しみ方を見つけられたシーズンだったと思う。基礎スキーは、中学までやっていたアルペンスキーとは違う奥深さ、難しさがあり、初心に戻ってスキーに取り組むことができた。

また、岩岳、朝里では、良い成績を残すことができたが、目標を達成できなかったことは悔しく思う。今年は札幌予選の突破と岩岳個人戦 50 位以内を目指し、さらに、エレガントスキー部として岩岳で優勝したい。

無 題

とりあえず回想…。去年目標だった1級が、今年5月までに取れず、言ってみれば、ふがいない1年やった。岩岳でも、朝里でも、小回り系が上手にならなかった。小回りもう少しよければ、岩岳だって、ポイント取れてた。そう考えると、今年の目標としてはまあ、1級取るのが最優先事項なんやけど、とりあえず、小回りどうにかせんとあかんあ…。でもまあ、コブにしたって4月から本格的に練習始めたのに、5月にはとりあえずは、降りて来れるようになったわけやし、今年シーズン入って小回りの練習しまくれば、なんとかなるんじゃないの？

とりあえず、enjoy skiing♪な感じで、今年もガンバルゾ

…あ！

学連も頑張らなきゃσ(;)

………シュプールってこんな感じでいいのかな???

1 年

今年1年間は今振り返るとあっと過ぎ去ってしまったように思う。そして、2年生となった今はもっと早く時間が過ぎている。時の流れにだけは振り回されないようにしていきたい。

「せっかく北海道に来たのだからスキーでもしよう」。そんな軽い気持ちで 1 年前に、このエレガントスキー部に入部した。サークルのイメージとしてはもっと軽い感じだと思っていたので、練習は基本的に絶対参加というエレのスタンスに初めは驚いたが、徐々にそれにも慣れていった。体力に自信が無い私にとって、去年のトレはきついものだったが辞めたいとは思わなかった。「絶対一年間やり抜こう」と決めていた。なかなか大変だったが、トレをやり抜き、やっと 11 月になりシーズンに入った。

今シーズンの目標は「岩岳大会でのポイント獲得と一級習得」。この目標達成のために、日曜の公式練で師匠に教わったことを何回も反復して練習に励んだ。ときに、自分の滑りをビデオで撮って見ると、「こんなで一級なんて本当に取れるのか」と思うこともしばしばあった。それでも、先輩方に色々と指導していただき上達しようとした。師匠はもちろんのこと、先輩方には色んなことを教えてもらい、シーズン中はとてもお世話になった。

3 月の岩岳新人戦では、あまりいい結果は出せなかったものの、今シーズンの絶対的な目標だった一級習得は達成できたので、私個人としては満足のいくシーズンだった。今思えば、初心者だった自分がよく一年で一級を取れたものだ。検定の合格発表の際、自分の名前が呼ばれたときは、思わずガッツポーズをして「よっしゃー」と言ってしまった。少し恥ずかしい気もするが、そのくらい嬉しかったのだ。11 月から 3 月の間は、それこそ「スキーしかしていない」と言っても過言ではないが、スキーも上達し、同期の仲間達、先輩方とも仲良くなり楽しい時間を過ごせたので、とても充実した一年間だった。

来シーズンは、今シーズン以上にスキーの上達に励み、また先輩として一年生に出来るだけスキーを教えていきたい。

目標は、岩岳出場。来年の今頃も「今年も充実していた」と胸を張って言いたい。

エレで 1 年過ごして

宮本 貴雄

今年の反省としては、やはり 1 級取れなかったことが悔しい。周りには自分と同じレベルからスキーをはじめ、しっかり 1 級とった人もいる。その理由を考えると、自分は周りにスキーに費やす時間が少なかったのではないかと思う。来シーズンは、とにかくスキーに行く。そしてシーズンの終盤には、自分のこの下の名前に負けにくいぐらいのスキーヤーに！！

まず、去年を振り返ってみると、エレにスキーに大学に慣れるために退屈しなかったなあというのが一番の感想です。初めてのことが多くて、てんやわんやになりながらも大学生活が充実していました。それがとても重要な気がします。

なので、今年も2年目ならではの刺激のある1年になるように心がけたいと考えています。

去年よりも「エレ」を知っているからこそ、スキーや合宿や岩岳や朝里が去年とはまた違った刺激になってくれるのを楽しみにしています。

岩岳出場資格を争う選考会ですら楽しみの1つでもあります。

去年の新人戦選考会がピークやったなあ...、なんて残念な思いをしないよう全力を尽くしたいと思います。